真っ白い爽やかな外観。設計デザインは地元の設計士に委託した

右田歯科医院

山口県防府市新田775番地の7

口の健康を通して患者さんや地域に幸せを提供

ゆったりしたサイズの駐車スペース。これなら駐車が苦手な運転初心者も簡単に停められる

「患者さんが幸せになることであれば既成概念にとらわれず、新しいことに果敢にトライしていきたい」
右田歯科医院院長　右田 克行

お父さまの歯科医院を継承。21世紀型歯科医院を目指す

右田歯科医院の右田克行院長は福岡歯科大学卒業後、山口大学歯科口腔外科講座に入局。その後、香川県歯科医師会現会長の豊嶋健治先生のもとで研鑽を積み、さらに山陽市民病院口腔外科部長などを経て、2009年春、実家の右田歯科医院に戻る決心をする。当時院長だったお父さまの信行先生が山口県歯科医師会の会長に就任し、公職で多忙になったこともあったが、もうひとつ大きな理由があった。「口腔外科は大事ですが、治療後のフォローや治療が必要にならないための予防にもっと重点を置かなくてはいけない、その両方を行ってはじめて患者さんの口の中を守ることができるのではないかと思うようになりました。それで開業歯科医師になろうと決めたのです」

父・信行先生と一緒に診療を行うようになり、改めて気付いたことがある。患者さんたちが親子で診療に当たることを思いのほか喜んでくれたのだ。「これからもずっと右田歯科医院で診てもらえると、皆さん安心されたようです」と右田院長は言う。

1年間、副院長を務めたのち、2010年に信行先生から右田歯科医院の運営をすべて任された。

「すでに患者さんがいる歯科医院の継承は楽だと言う人がいますが、とんでもない。歯科医院を継続させるためには父がつくりあげたものに安住してはいられません。どんな企業でも長期に存続する努力・病院内の常なる変革・地域貢献に尽力しています。私は、右田歯科医院を21世紀型歯科医院の発信地にするという意気込みで、父の後を引き継ぎました」

それを実現するために診療所のリニューアルを計画。同時に、あるセミナーで知己を得た(株)デンタルタイアップの小原啓子さんにマネージャーに就いてもらい、理念づくりに取り掛かった。小原さんは歯科医院に「理念による創造型経営」を提唱する注目の経営コンサルタントだ。

「歯科医院の運営には、院長が自分の人生をどう歩むかという人生哲学が色濃く映し出されます。右田院長はスタッフ一丸となって地域の患者さんを守りたいと開口一番におっしゃった。それで私もお手伝いすることにしたのです」

お2人の間で何十回にもわたるやり取りが行われ、右田歯科医院の理念ができあがった。

『右田歯科医院・歯科口腔外科は口の健康を通して皆さまに幸せを提供します』――。

それを実践するための新しい建物が今年4月、旧診療所敷地内についに完成した。

パーテーション、個室なしのオープンスタイルの診療室

アジアやヨーロッパなど海外の診療所も見て回ったという右田先生が建てた新診療所は、広い駐車場の奥に真っ白な姿を見せている。入口から待合室、さらに廊下を通って診療室へ。ストレッチャーでも無理なく入るようにと、すべてにゆったりしたサイズがとられている。

そのゆったり感が最も味わえるのが診療室だろう。片側に2台のシンフォニー（S-S、S-L 各1台）と1台のコトハが、反対側に同じくシンフォニー（SP-L）4台の計7台のユニットが広い診療室内に整然と配置されている。パーテーションでの区切りはない。また、診療室はここだけで、個室があるわけでもない。このスタイルこそが、右田先生が考える患者さんが幸せになるための診療室のあり方というのだ。

「患者さんは、密室で歯科医師と歯科衛生士の3人だけになることに大きな抵抗や不安をお持ちの方が多いようです。逆に、こういうふうにオープンスタイルにすることで患者さ

患者さんに安心感を与えると、あえて個室やパーテーションを設けずオープンスタイルに

治療後のメンテナンスや予防にも力を入れたいと、新診療所ではコトハを導入

写真左：旧診療所の扉を再利用した可動式パーテーションはスタッフのアイデア
写真右：車いすでもすんなり入れるトイレ

Migita Dental Clinic　右田歯科医院

んに安心感を与えることができます。さらに、皆と空間を共にすることで、患者さん同士、患者さんとスタッフ、スタッフ同士の間に、信頼感や親近感が生まれます」

それでも、患者さんの中には、ほかの人に診療されているところを見られたくない、という人がいる。「スタッフはそうした患者さんのために何とかしてさしあげなければと知恵を絞る、それも大きな狙いです」と右田先生は強調する。

スタッフたちのアイデアで出てきたのがロールカーテンと旧診療所の扉を再利用した移動式パーテーションだ。これならどのユニットでも、すぐに半個室ができあがる。

「歯科医院に来ること自体が患者さんにとってはストレスです。そのストレスをできる限り減らしてさしあげたい。ですから設計士には、患者さんが安心できる診療所にしてほしいとだけお願いしました。駐車場の1台分のスペースをゆったりしたサイズにして、さっと車を停められるようにしたのも、壁に消臭の塗料を使ったのも、患者さんを少しでもストレスから解放してさしあげたかったからです」

ちなみに、患者さんからプライバシーへの配慮がないといったクレームは1件も来ていない。

吉村先生を副院長に迎え、訪問歯科診療を準備中

患者さんのために今準備をしているのが訪問歯科診療だ。右田院長がその担当にと、三顧の礼をもって迎えたのが山口大学附属病院口腔外科にいた吉村達雄先生だ。吉村先生は口腔外科の治療にあたりながら、高齢者や障害者の口腔ケアにも長年携わってきた。右田院長とは、福岡歯科大学の同期だ。

「地域柄、高齢の患者さんがたくさん来院されます。また、在宅で療養される方も増えています。そうした方の口腔ケアを進めるためには、どうしても吉村先生の力をお借りしたいと思いました」と右田先生は話す。

当の吉村先生は「大学病院にずっといるつもりでしたが、右田院長の歯科診療にかける熱い思いと、イチからシステムをつくることができる面白さに心が動かされ、お手伝いさせていただこうかと。診療所での仕事は、勤務医とはまた違うやりがいがあります。右田院長には、私に声を掛けてくれてありがとうと感謝の気持ちでいっぱいです」

今、吉村先生は副院長として日々の診療にあたりながら、訪問診療開始に向けてのシステムづくりに余念がない。

実は、お父さまの診療所を継承することも、友人と一緒に仕事をすることも絶対にうまくいかない、と右田先生は随分周囲から反対されたという。しかし、右田先生は、「患者さんに少しでも良い治療を提供するための議論を吉村先生や父とすることはあっても、人間関係でもめているヒマはありません。それにもし、人間関係がぎくしゃくしていたら、すぐに患者さんに伝わります。それは患者さんをアンハッピーにしてしまう。当院の理念に反します」と右田院長は意に介さない。

●開業年月　1977年12月1日 開業　2012年4月リニューアル
●面積　258.29平方メートル（約78.29坪）
●主な機器や設備　オサダシンフォニー（S-S）1台、（S-L）1台、（SP-L）4台、オサダコトハ1台
●スタッフ構成　歯科医師3名、歯科衛生士9名、歯科技工士2名、事務2名、マネージャー1名

良いケアを提供するには、信頼ある医療機器が不可欠

患者さんを幸せにするための努力を右田先生は少しも惜しまない。口腔がんなどは山口大学附属病院と、矯正は近くの信頼のおける先生にお願いするなど、ほかの医療機関とも積極的に連携を図っている。

同時に、スタッフ教育にも力を入れる。小原マネージャー指導のもとで毎月一度ミーティングを開き、年間の中期計画の目標の達成度を確認していく。小原マネージャーは言う。「ここの歯科衛生士さんたちは毎日手技トレーニングをし、記録をとっています。自分たちがどのくらい目標に達成したかをチェックするためです。これは、私や右田院長が命じたからではありません。右田歯科医院の理念を実現するために、自分たちは何をしなければならないかを考えての自主的な取り組みです」

患者さんだけでなく、スタッフも幸せでないといけないというのが右田院長のスタンスだ。広いスタッフルームを用意したのも、そのためだ。「スタッフには、右田歯科医院で働いていることを誇りにしてほしいからです」。こう話す右田院長の言葉にはスタッフへの深い愛情がにじみ出る。

右田院長はボランティア活動にも熱心だ。先の東北大震災の際にはすぐに被災地に駆け付けた。「ちょうどあのころ、私は新診療所の立ち上げプランをつくっているときで苦しい日々を送っていました。そんなとき被災地に行き、人生観ががらりと変わりました。被災地の皆さんは、本当に大変な中で勇気をもって再建に立ち向かっておられる。それに比べて私の苦労なんて微々たるもの。大変なんて言っていたら被災地の方に申し訳ないと心底思いました。それに、多くの患者さんが『新しいクリニックができるのを楽しみにしていますよ』とおっしゃってくださっている。患者さんの気持ちに応えるために、世界一素晴らしいクリニックにしようと堅く心に誓いました」

今回、私たち取材スタッフが右田歯科医院を訪れたとき、右田院長は両手を広げて「世界一素晴らしいクリニックへ、ようこそ」と迎えてくださった。その中には、世界一素晴らしいクリニックにするために切磋琢磨しつづけていますという自負が込められていたのだ。

最後にオサダのユニットの感想をお聞きすると、机の引き出しの中から古い印刷物を取り出し、見せてくださった。なんと、昔のオサダのユニットのパンフレット！

「祖父も歯科医師で、オサダのユニットとの付き合いはその祖父の代から。祖父が愛しんだものを父が愛し、父が愛したものを私が使い愛することも大切な継承だと思います。なぜならユニットはチーム医療の一つの要だからです。信頼ある医療機器なくしては良いケアは提供できません」。温かく心強い言葉をいただいた。

1カ月に1度、小原マネージャー（奥右から3人目）と共にミーティングを行い、中期目標達成について話し合う

21世紀型の歯科医院を目指す3人。右田院長を挟んで左側が吉村達雄副院長、右側が小原啓子マネージャー

技工室。右田歯科医院には技工士が2名いる。急ぎの患者さんにはその日のうちに対応できる

受付の後ろにあるカルテ収納庫。手で記入するほうが温かみがあると、紙カルテを使用

待合室と診療室の間に設けたカウンセリングコーナー。ここも個室にせずに、オープンスタイル

日本規格は身長150ｃｍに合わせて作られているため、今の日本の若い女性には低すぎると、作業台の高さを世界規格の90ｃｍに

患者さんを幸せにしようと頑張っているスタッフたち